

吹奏楽部の生い立ち

秋山宏好(D組)

二高吹奏楽部は、我々三三会のメンバーが中心となって結成された。きっかけは先輩の亀掛川医師が楽器を寄贈されたことによる。

一式百万円で、その構成はピッコロ①・クラリネット②・トランペット②・アルトホルン①・ユーフォニウム①・トロンボーン②・バスチューバ①・小ドラム①・大ドラム①・シンバル①であり、大河内先輩の東一番町に在った大一楽器店から納入された。

昭和三十年(我々が一学年当時)、愛好会として発足した。当時、吹奏楽団は一般には、ブラスバンド(金管楽器での編成を言う)、二高生には「ブラバン」と呼ばれていた。宮城県内の高校では東北高校のみであり、我が校は二番目になるがその後一高にも出来た。県総合体育大会開会式の入場行進には、東北高校と合同で参加した。

さて、楽器もメンバーも揃ったが、中学校で経験した者が多少はいるものの、是非ともレベルを上げるためにも指導者が必要となり、結城幸太郎先生にお願いして、大一楽器店主任で元帝国海軍・軍楽隊のトロンボーン奏者で、東北吹奏楽連盟の指導者でもある小野義徳先生を迎えることとなり、正に当を得た思いであった。

運動会で演奏し、対一高野球定期戦応援では、三十一年と三十二年に連続勝利を収め、市内一番町を中心にブラバンを先頭に全校生による凱旋パレードを行った。文化祭のステージでは、小中学生やPTA、特に女子校生には大人気で、技倆の程は別として当時吹奏楽の生演奏が珍しかったせいでもあったろうか。

愛好会から部になることは、楽団運営上特に経済的な事情でもあった。楽器の整備、機能維持のための修理費及び音源となるリード、潤滑油・研磨材等の消耗品、楽譜などこれらの必要な物は、我々メンバーの小遣いで購入していたのだが、演奏の機会や練習が増えることによつて経費も嵩み、親に小遣いの増額もままならない状態であった。

そこで全校生徒総会に提案してはということになり、三井 肇・多田恭憲両君の議事運営のもと、吹奏楽部として承認となり、生徒会予算から一百万円の助成を受けることになった。

昭和三十三年卒業当時のメンバー構成は、高橋靖人(ドラム・指揮)・石垣秀生(ユーフォニウム)・川角 恭(アルトホルン)・佐藤(鶏橋)正(トロンボーン)・三品吉彦(クラリネット)・秋山宏好(クラリネット)の面々であった。

吹奏楽部創部五十年目の二〇〇五年十月二日、記念OB演奏会が川内記念講堂に於いて、指揮者、記念作品の作曲などOBで音大出身者数名の協力のもと、六十名のOB演奏メンバーで開催された。最後に小野義徳先生(八十二歳)指揮のもと、「旧友」と校歌を斉唱し、盛会のうちに幕が下ろされた。後日、演奏会の様子等がDVDに収められて希望者に販売し、収益金が二高吹奏楽部に寄贈されることとなった。

以前から時々、OB懇親会を行ってはいたものの、二〇〇七年に正式に「二吹会」が結成された。現在OBの数は六百名を越えている。音楽は自分にとって心の栄養であり、特に吹奏楽部は魂に勇気を与えるものであると思っている。

(仙台市青葉区 在住)

仙台二高三三会『卒業五十周年記念文集』
発行日 平成二十年五月二十五日
【疾風怒涛・北陵健児】
発行者 仙台二高三三会
世話人代表 後藤 広 司
井上 功